

# ■ブユを調べる

昨年末、脚に白いまだら模様のあるブユがいました。これを採集していたのですが、私自身はヌカカを捕まえていたつもりで、後で調べるためにヌカカの勉強をしていました。採集した虫は冷凍庫の中の小さな箱に入れているのですが、蓋を開けてみてびっくり。ヌカカではなくて、ブユだったのです。慌ててブユについてにわか勉強をして、今日、ちょっと調べてみました。



調べたのはこんなブユです。ブユはブヨとかブトとか呼ばれています。脚に白っぽい模様があるので、何だろうと思って採集していました。大きさは小さくて体長はわずか三、三ミリ。

ブユ科についてはちょっと古いのですが、こんな論文が見つかりました。

緒方一喜、佐々学、「日本産ブユ科 Simuliidae の種の検索表と薬剤によるブユ幼虫の駆除法について」、*Medical Entomology and Zoology* 6, 10 (1955).

この論文中の検索表は♀用なのですが、ブユ科の♂は合眼性で、上の写真の個体は眼が離れているので、多分♀だろうと思って使ってみました。検索をしてみたところ、二、三怪しいところがあるのですが、ブユ属アシマダラブユ亜属アシマダラブユにたどり着きました。いつもの通り、その過程を写真で追いかけていきたいと思えます。検索表の道筋を書いてみると次のようになります。

①から見ていきます。

## 雌成虫の種への検索表

- ①翅のRs脈は分岐しない;前縁脈は細毛、棘毛をもつ;跗突起が存在する
- ②跗括部も跗突起も存在する;小翅室がない;R脈基部には細毛を生ずるもの、生じないものがある;形は大型、中型、小型  
ブユ属
- ③翅のR脈基部は細毛を生じないで裸出する
- ④爪は基部、中央に突起を有せず、凹縁は平滑;生殖器板はほぼ兔唇状で、内縁は左右接近して平行する  
アシマダラブユ亜属
- ⑤第7腹板に顕著な2剛毛束はない
- ⑥脚各腿節、脛節は少なくとも基部が黄色ないし黄褐色
- ⑦顔面は黒色ないし灰黒色で光沢がある;後脛節は基側およそ1/2またはそれ以上黄色
- ⑧胸背は黄色を生じ、明瞭な黒色の3縦条紋がある;やや大型種  
アシマダラブユ

翅の写真です。翅脈の名称はMND (Manual of Nearctic Diptera) を参考にしています。①のRsが分岐しないというのはいくらも分かります。同じ①の中の前縁脈は細毛、棘毛をもつて突起のことがあります。最後の跗突起は脚の跗節第一節にある突起のことなのですが、次の②の跗節第一節にある突起のことはよく分かっていません。後でもう少し調べてみます。ついでに②にある小翅室というのは矢印の部分

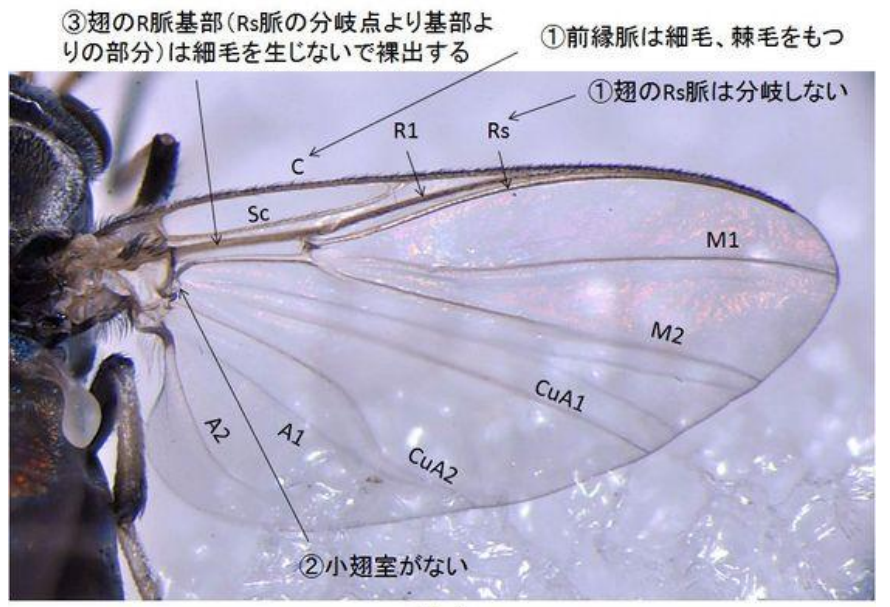


Fig. 1

に翅室があるかどうかということだと思います。よく見ると小さな翅室があるみたいなのですが、おそらくこれはないという部類に入るのではないかと思います。③のR脈の基部には細毛は生えていませんでした。ということ、翅を見るだけで①から③まで進むことができました。



Fig. 2

次は脚の爪の歯についてです。この個体は上の写真に見えるようにまったく歯はありません。この論文

の検索表ではこれは重要な項目で、歯がなければアシマダラプユ亜属、中央歯が大きいとツメトゲブユ亜属、中央歯が小さいとヤマブユ亜属に分かれます。従って、これはアシマダラプユ亜属になります。生殖器官板についての項目を飛ばして、⑤の腹板について見てみます。



Fig. 3

⑤ 第7腹板に顕著な2剛毛束はない

これは腹側から写した写真です。どれが第七腹板なのかはつきりしないのですが、たぶん、矢印の部分ではないかと思えます。とにかく、ここに剛毛束はありません。脚を見ると、腿節と脛節の基部がすべて淡色になっています。これが⑥です。また、⑦の後脛節の基部半分以上が淡色になっているところも書いてある通りです。

⑦額面は黒色ないし灰黒色で光沢がある



Fig. 4

これは頭を斜め前から写した写真です。⑦の額面は矢印で示した部分で灰黒色であることは確かですが、

光沢があるかどうかは微妙です。中央の黄色に見える二つは触角で、その前が顔面ですが、顔面は灰色で明るい色です。

⑧胸背は黄色を生じ、明瞭な黒色の3縦条紋がある



Fig. 5

最後は胸背で、黒い三本の帯があります。また、黄色を生じるといふのは次の写真の方がよく分かりますと思えます。

⑧胸背は黄色を生じ・・・



Fig. 6

黄色っぽい毛が生えているようです。ということですが、怪しいところが二、三箇所あるのですが、一応、アシマダラブユになりました。ただ、亜属については、「日本昆虫目録 第八巻 双翅目」を見ると変更されて、アシマダラブユ亜属、ツメトゲブユ亜属、ヤマブユ亜属はいずれも、*Simulium* 亜属に入っていました。

ついでに検索に使わなかった写真も載せておきます。



Fig. 7

これは頭部を斜めから見たところですが、先ほど白く輝いていた顔面が灰黒色になっています。おそらくここには細かい毛が生えていて、光の当てる方向で白く光ったり、光らなかつたりしているのではないかと思います。



Fig. 8

頭部を横から見たところですが、口肢が長いですね。

この論文の出された時一九五五年には二五種だったブユ科は、今や七八種になっています。この検索表がどこまで使えるのか分かりませんが・・・書いていても少し細かい部分の写真が欲しくなりました。例えば、前縁脈の毛とか、 $\alpha$ 脈基部に毛のないところとか・・・後で追加していきます。(追記

Sanit. Zool. 28, 193 (1977)) に南西諸島で採集された種の詳細が載っているのですが、胸の黒筋が五本と書いてあり、どうもこの個体と違っているような感じがしてきました。もう少し検討してみます(追記 2016/01/14: 「大図鑑」の図版の絵では胸背の黒い三本の筋はもっと細いですね。やはり違うのかなあ。後の特徴は合っていそうなんだけど)(2016.1.13記)